

# 令和2年7月 データから見た業界の動き

## ■ 概 況

7月の山梨県内のD I値は、業種全体で売上高は▲54ポイント（前年に比べ▲40）、収益状況は▲36ポイント（前年に比べ▲18）、景況感▲58ポイント（前年に比べ▲46）と大きく落ち込んでいる。

製造業では、売上高▲70（前年に比べ▲70）、収益状況▲45（前年に比べ▲20）、景況感▲70（前年に比べ▲50）となった。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により麺類製造業は組合として計画していたイベント出展を全て中止すると判断、織物業界でも秋冬物の展示会や来春～来夏の商品商談会が開催できず、先行きの不安、回復の見通しが立たないとの報告があった。宝飾関係では国内での展示会の中止、大きな市場とされている中国（香港）の展示会に外国人バイヤーは入国できないなど売上が大きく減少（前年比▲80%）、製造機械用の金属製品、一般機械、電気機械部品製造でも世界的な経済不況の影響を受け、不透明な状況が続くとの予測をしている。

また、異例の長梅雨の影響により、工事の進捗が遅れ、木材・骨材の売上にも影響があった。

非製造業でも、売上高▲43（前年に比べ▲20）、収益状況は▲30（前年に比べ▲17）、景況感▲50（前年に比べ▲43）と製造業と同様に悪化。

宿泊業では通常営業を再開、感染症予防対策への取り組みを県が認証する「やまなしグリーンゾーン認証」を取得するなど独自のコロナウイルス対策を行い顧客への安全性確保をPR、宿泊客の増加に取り組んでいるが効果は限定的。旅客運送では、前年同月に比べての売り上げは▲90%と激減、団体旅行の敬遠、外国人観光客の訪日は見込めず年内は仕事量が回復する見込みは無いと考えている。警備業では規模にかかわらず全面延期又は中止となっていたイベントが小規模なものは再開、しかし長梅雨の影響により例年多い工事警備は低調で売り上げは前年同月比と▲20%と報告された。長梅雨は貨物輸送にも影響、果物や野菜類の発育が悪く出荷量が減少した。

公共工事は順調に発注されている様子が伺えるが、民間の設備投資は新型コロナウイルスの経済への影響が長引くとの見通しから低調、第二の地場産業とも言える建設業は先行きを懸念している。

新型コロナウイルスの終息は見えず、経済の停滞がいつまで続くのか見通しも立たない状況下において、最低賃金の改定の議論が進んでいる。最低賃金のUPは都市圏への労働力の流出を抑制することへの効果はあるが、雇用する企業側は仕事量が減少しており、雇用人員の維持は今後厳しくなることが予想される。県内の経済力・雇用力が縮小しないよう中小企業者の経営を長期的に支援する施策又は公共事業が早急に望まれる。

## ■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

### ● 製 造 業

食料品 （水産物加工業）	水産物加工業は、業務用・ギフトの売り上げは前年同月比67.4%となった。今後の回復の見通しも不透明である。
食料品 （洋菓子製造業）	菓子製造業では、新型コロナウイルスの影響により外出が減り、自宅での時間が増えたことで冷菓や菓子全般的に売り上げが好調で、同月比128%となった。

<p>食料品 (麺類製造)</p>	<p>コロナウイルスの影響により、組合で計画していたイベント出展については今年度全て中止した。</p>
<p>食料品 (パン・菓子製造業)</p>	<p>菓子業界では、7月の売り上げも未だに厳しい状況となっている。雇用調整助成金を申請し、活用している組合員もいる。例年、7月以降の暑い時期は閑散期の上、今年は売り上げも減少しているため、工場稼働の電気代やボイラーの燃料となる灯油代等の経費を見直し、改善を行った結果、月次決算が前年同月比よりも多少であるが良い結果となった。</p>
<p>繊維・同製品 (織物)</p>	<p>インテリア関係では、ホテル・旅館からの注文がなく売り上げが減少した。ネクタイ・服裏地・傘地も、例年と比較して注文が減少している。</p>
<p>繊維・同製品 (織物)</p>	<p>織物業界は、新型コロナウイルスの影響によって、秋冬物の展示会や商談会が開催出来ず売り上げが減少。京都に取引先が多く、積極的な商談が出来ないため、来年の春夏物の製品作りに着手出来ない状況である。</p>
<p>木材・木製品製造</p>	<p>7月はコロナに加えて長雨の影響もあったため、加工・販売共にこれまでよりもさらに厳しくなった。また、コロナが蔓延しつつあるので警戒しながら仕事に取り組まなければならない。今後は、さらに業況が悪化する恐れがある。</p>
<p>印刷・同関連業</p>	<p>7月もイベントやセミナーが中止となったため、発注が取り止めとなり、売り上げは減少した。取引先の不況が当業界にも影響しており、売り上げは減少している。持続化給付金の申請や雇用調整助成金等を活用している組合員もいる。今後の先行きは不透明である。</p>
<p>窯業・土石 (砂利)</p>	<p>7月は雨が続き、原石を採取出来ずに在庫が減ったが、工事の進捗にも雨の影響があったため売り上げも減少した。</p>
<p>窯業・土石 (山碎石)</p>	<p>台風災害の影響で県外（特に東京都・神奈川県）への資材供給が上向いたことや、中部横断道の最終段階工事が遅れながらもそれなりの進捗で動いたことから、市況は好転した。しかし、昨年の台風災害で被災した工事設備や運搬路の修理が完了し、被災地に近い同業者の生産体制が平常に戻って来ているので、本県資材の需要の見通しは暗い。リニア関連工事が南アルプス市内で発注されると新聞報道されたが、実際に現場が動き始めるのは半年以上後になると見込まれるので、今後を考えると他の工区を早期に発注して頂き、工事期間が集中しないように余裕を持った工程により工事を実施してもらいたい。</p>
<p>鉄鋼・金属 (金属製品製造業)</p>	<p>在宅勤務やリモート会議のためパソコンの売り上げが増加し、国内向け半導体関連は好調であった。しかし、輸出制限により製品が販売できないため生産も抑えられ、前年同月に比べての売り上げは▲50%程度減少している。</p>
<p>鉄鋼・金属 (金属製品製造業)</p>	<p>受注が減っているため、前年同月比よりも売り上げは減少した。今後の受注に関しては不透明な状況が続いていくと予測している。</p>

一般機器 (金属製品製造業)	業界では世界経済の不振から、輸出の大幅な落ち込みと国内消費も低下しており、大変厳しい現状となっている。回復の目処がなく、先行きが懸念される。
電気機器 (電気機械部品加工業)	コロナ関係に公的資金が投じられているため、インフラ整備まで予算が回ってきていない状況である。
電気機器 (電気機械部品加工業)	7月は昨年同月比▲45%の受注となった。8月、9月以降と月を追うごとに経済状況が悪化し、先行き不透明な状況が続くと予測している。組合員では週休3日の会社が増えてきている。
宝飾(研磨)	展示会やイベントが中止となっているため、前年同月比は▲50%の減少となり、業界としての状況は厳しくなっている。香港が年内の外国人の入国を禁止したため、予定していた展示会に出展が出来なくなった。年内は売り上げが回復する見込みは無い。
宝飾(貴金属)	前年同月に比べての売り上げは▲80%と激減している。今後の売り上げはコロナの感染拡大が終息しない限り回復しないと考えられる。

## ● 非製造業

卸売(紙製品)	売り上げが大幅に減少し、業界としての存続が危ぶまれる。原因としては、中国がリサイクル原料の輸入を全面的にストップしたため原材料が先月まであふれていた。しかし、コロナの影響でほとんどの業種が製造、営業活動を大幅に縮小したため、物流が落ち原材料が集まりにくくなると同時に製紙メーカーでの紙の生産が大幅に減産、原材料の納入も縮小した。在庫は減少したが、商売として成り立たなくなっている。コロナ第二波が始まりだしたので、今後の予測は五里霧中である。どこまで持ちこたえられるか、どこで事業をやめるか考えなくてはならない状況である。
卸売(ジュエリー)	国内外のイベントや展示会が中止となり販売額が減少し、昨年同月比▲30%なった。今後の見通しは全く立っていない。
宿泊業	6月は休業していたホテル・旅館も7月からは通常営業となったが、宿泊客が来ないため苦慮している。宿泊客に安心して利用してもらえるように「やまなしグリーンゾーン」の認証を申請する等、ホテル・旅館ごとに感染防止対策に力を入れている。
美容業	山梨でも日増しにコロナの感染者が増えているため、今後は今まで以上に組合員店舗への売り上げ減少が懸念される。個人店舗では固定客がいるが、大型店ではかなり客足が減少している状況である。美容業は顧客と直接接する仕事のため、今後も衛生面でのコロナ対策を行っていきたい。
一般廃棄物処理	国が打ち出した新たな廃プラスチックの利用については、その場しのぎの対応である。中国の輸入禁止・マイクロプラスチック問題等、本来の持続可能な社会づくりの観点に立ち対策を講じて欲しい。

警 備 業	7月は全面的に中止となっていたイベント警備が小規模なものに限り少しづつ復活し、土木建設工事現場も徐々に増加した。しかし、長雨の影響により工事が中止となる現場が多く、売り上げは前年同月比と比較し▲20%となった。雇用はコロナ禍により他業種からのアルバイトで雇用される者はあるが、長続きしないため人材不足となっている。求人広告を行っているが、夏場の業務の厳しさから敬遠される状況にある。資金繰りについては厳しい状況となっているが、一部組合員は無金利融資を受け、運転資金の確保を行った。
建設業（総合）	7月の県内公共工事動向によると、前年同月に比べ件数10%、請負金額では39%とそれぞれ増加した。7月末累計でも、件数は15%、請負金額は13%の増加となった。
建設業（型枠）	7月は例年に比べ低調な売り上げとなった組合員が多い。8月から年末はある程度の現場は動き始めるが、来年度以降はコロナの影響が出始め、公共工事の予算削減や民間工事の設備投資の中止や延期などが見込まれ、場合によってはリーマンショック以上の悪化となることが予測される。雇用調整助成金等の施策を活用しなければならない組合員もいる。
建設業（鉄構）	首都圏での工事が多いため、コロナ対策が必要である。発注物件が少なくなってきたため、物件の取り合い傾向が見られ受注価格が低下している。
設備工事 （管設備）	7月は公共事業の収益は増加した。民間工事は減少し、材料等の売り上げは減少した。
運輸 （タクシー）	コロナの第二波と見られる影響で再び乗客が減少している。GoToトラベルキャンペーンが始まったが今のところ効果が無い。収入が不安定であるため、若い乗務員の退職者が増えてきている。
運輸 （バス）	前年同月に比べての売り上げは▲90%と激減している。観光業においては、年内は仕事量が回復する見込みは無いと考えている。
運輸 （トラック）	梅雨明けが例年よりも遅れたため、野菜・果物・飲料等の配送に影響が出ている。秋以降に関しても経営の先行きが不透明である。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2019/7	2020/6	2020/7	2019/7	2020/6	2020/7	2019/7	2020/6	2020/7
売 上 高	0	-50	-70	-23	-37	-43	-14	-42	-54
収 益 状 況	-25	-60	-45	-13	-27	-30	-18	-40	-36
景 況 感	-20	-60	-70	-7	-30	-50	-12	-42	-58

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

